

野菜の多品目通年栽培による安定的経営を実現

国営かんがい排水事業及び関連事業により農業用水が安定的に供給されることで、野菜の多品目化と契約栽培に取り組み、通年雇用や経営規模の拡大等、安定的な経営を実現しています。また、地域の営農研究会「本庄PF（精密農法）研究会」を組織し、「本庄トキメキ野菜」の名前でブランド化に取り組んでいます。



国営かんがい排水事業
「神流川沿岸地区」平成16～24年度

関係市町：群馬県藤岡市、
埼玉県本庄市、深谷市、
美里町、神川町、上里町

受益面積：4,019ha

概要：頭首工、用水路、畑地かんがい施設を改修及び新設し、適切な用水配分と施設機能改善を図り、農業経営の安定と生産性の向上に資する

金井 幹雄
【埼玉県本庄市】



経営面積：6.2ha

主要作物：葉しょうが、レタス、
ブロッコリー、ねぎ、水稻

労働力：自家労働3名、常時雇用4名、
臨時雇用10人

多品目通年栽培で安定的経営を実現

収益性の高い葉しょうがを基幹作物とし、野菜の多品目通年栽培に取り組んでいます。多品目栽培により、価格暴落や不作等のリスクを分散しています。また、



価格変動のリスクを抑えるため、市場出荷に加えて契約栽培にも取り組み、市場向けと契約販売のバランスを考慮し、経営の安定化に結びつけています。

高齢化等により営農を継続できない農地を借り受け、地域の耕作放棄地対策に取り組んでいます。借り受けたほ場が分散していることで管理コストは増大しますが、局地化する気象災害や病害虫による被害からのリスク分散を図っています。

高品質な葉しょうがを栽培

葉しょうがは連作に弱く、栽培が難しいこともあり、埼玉県内では販売農家が減少しましたが、水利事業による安定的な用水供給と、「精密農法」により気温や日照、繊細な水分管理等のノウハウを蓄積してきたことから、スジが入らない高品質な葉しょうがの生産を可能としています。



精密農法 (Precision Farming)

生産現場の情報（土壌、作業、収量、環境等）を克明に記録しながら営農を進め、生産技術の改善に活かす農業

精密農法で「トキメキ野菜」

十分な水の供給が周年にわたり可能となったことから、地区としても野菜の品質向上と安定生産の確立を目的に、経営意欲が高い野菜農家7名により、平成14年に「本庄PF（精密農法）研究会」が組織され、初代代表を務めました。

「精密農法」により栽培した高品質な野菜を「本庄トキメキ野菜」の名称でブランド化を進め、本庄産野菜の知名度向上に取り組みました。包装材に生産者の写真や2次元バーコードを印刷したシールを貼り、栽培履歴やおすすめの調理法等の情報を発信することにより、消費者の信頼確保と地域に愛される野菜作りに努めています。また、ブランド保護のために、類似名称「本庄のトキメキ」を商標登録（野菜、加工野菜）しています。



雇用活用と人材育成

通年栽培により、作業と収入が年間を通して確保されることで、途切れない雇用が可能となり、従業員の入れ替わりが少なくなっています。また、農作業場へのエアコン設置や労働保険制度の加入等、就労環境の改善にも積極的に取り組み、社会保険労務士に相談しながら継続した雇用を行っています。



さらに、地域の人材育成の取組として、長年「埼玉県農業大学校」の研修生の受け入れや、雇用した若者の独立就農を支援するなど、地域農業の担い手育成に務めています。現在は、地域の若きリーダーとして活



躍している長男の剛氏に経営移譲し、若い世代による変革を見守るとともに、「埼玉ひびきの農協」の代表理事組合長として、農業の発展とともに地域の活性化にも取り組んでいます。

徹底した栽培管理で品質を高位平準化し、 世界が認める大輪系切り花を確立

国営かんがい排水事業及び関連事業により、花き栽培に必要な農業用水が安定供給されたことで、徹底した栽培管理のもと、高位平準化に取り組むことで生み出される大輪の切り花は、国内はもとより海外からも高い評価を受けています。



国営かんがい排水事業
「中信平二期地区」平成16～26年度

関係市村：長野県松本市、安曇野市、
塩尻市、山形村、朝日村

受益面積：8,847ha

概要：頭首工、用水路を改修し、
適切な用水配分と施設機能
改善を図り、農業経営の安
定と地域農業の振興及び維
持管理費低減を図る

株式会社
フラワー・スピリット
(代表：上條 信太郎)
【長野県松本市】

経営面積：3,34ha

主要作物：施設花き

トルコギキョウ、

ランキュラス、

キンギョソウ

構成農家：18戸

(松本市内分のみ)



高品質な施設花き

事業により用水が確保されたものの、生産調整が進められる中、代表の上條氏はいち早く水田転作による高収益作物の導入を進めました。安定して用水が供給できる強みを活かし花きの施設栽培に取り組み、収益性の高い施設園芸を確立しました。

地区を長野県有数の花き産地に育てた上條氏は、市場ニーズに速やかに対応するため、昭和62年に松本市の花き農家3名でフラワー・スピリットを立ち上げ、標高差のある茅野市や筑北村、緯度の異なる福島県浪江町など徐々に組織と生産拠点を拡大して来ました。



世界が認める大輪系切り花

徹底した栽培管理により品質の高位平準化された切り花は、海外博覧会でも複数の受賞歴があります。特に、10年に一度オランダで開催される世界最大規模の国際花き園芸博覧会「2012年フェンロー国際園芸博覧会（フロリアード2012）」では、春のランキュラス、夏のトルコギキョウで第1席（最高賞）を受賞しました。

国際博覧会での受賞を機に海外でも人気を博し、平成28年は生産数量320万本のうち約18万本を輸出しています。



第1席のピガー・ホワイト
(ランキュラス)

ニーズに応えた高位平準化

安定した用水供給のもと、日照時間が長く冷涼な中信平の気候と、標高差や地域差を最大限活かしつつ、夏期のバラが品薄になる時期に合わせたトルコギキョウや、冬場のランキュラス等を組み合わせた通年栽培を行っています。

手間のかかる職人的技術をマニュアル化することにより、品質を重視した丁寧な栽培管理を行い、一般流通価格の倍以上の単価で販売される品種もあります。花穂の長いキンギョソウなど、消費者のニーズを捉えた栽培・改良を続けており、特に消費者の関心が高い「花もち」についても改良を重ね、日持ちの良い大輪系の切花は市場から高い評価を得ています。



人材育成と花き産業振興

「長野県農業大学校」の研修生を受け入れるとともに、長野県の「新規就農里親支援事業」の里親として、新規就農希望者を就農に至るまでサポートし、就農後も継続して支援するなど、地域の担い手の確保・育成と県内花き産業の発展に貢献しています。

また、全国の種苗会社や生産者の視察を積極的に受入れ、自ら培った技術を惜しみなく公開しています。国内各地から戦略的な高品質切り花の生産・出荷の先駆者として講演に招かれ、切り花生産の技術や独自の経営戦略について教授するなど、国内花き産業全体の発展にも努めています。

あわせて、松本市で開催された、国内花き産業の発展の可能性を示す国際イベント「国際フラワーフォーラム2016」の発起人の一人として、企画立案から実施まで主体的に関わるなど、長野県産花きの魅力を国際的に発信しています。

